

## モンゴル

2013年第一四半期のモンゴル経済は良好な側面と、悪化する側面を見せている。国家財政収支は黒字を記録し、インフレ率は一桁に低下した。登録失業者数は減少している。

しかし、主要輸出品価格の低迷と鉱業部門への外国直接投資の低迷により、鉱工業生産額の伸び率は低下している。貿易総額と外国直接投資は、前年同期を下回った。モンゴル銀行の金融緩和政策によっても、下り坂に向かうモンゴル経済の景気循環を押しとどめることはできていない。

### マクロ経済指標

2013年第1四半期の鉱工業生産額は、食品と軽工業を中心とする製造業の生産の増加により前年比7.1%増となった。製造業は18.5%増、公益事業（電力・熱供給・水道）は6.3%増であった。鉱工業生産額の半分以上を占める鉱業の生産額は、前年比1.8%増にとどまった。これは石炭、銅、モリブデンなどの主要鉱業品の生産額が、中国などの外国需要の減少によって低下したためである。さらに、最近の外国直接投資に対する国内の否定的な雰囲気と、保護主義的な政策によって、いくつかの主要石炭採掘現場では新たな投資と生産が、制限、あるいは一時停止させられている。モンゴル銀行によれば第1四半期の外国直接投資は前年同期を12.3%下回っている。

新たな雇用機会の創出と就業によって、2013年第1四半期末の登録失業者数は、35,212人に減少している。これは前年同期をおよそ30%下回っている。労働省によれば、2013年第1四半期に7,690人分の雇用機会が新たに創出され、6,774人の登録失業者が就職した。第1四半期に鉱工業部門の雇用は3,089人、率にして5.6%増加した。このうちの65%は製造業の雇用である。

失業者数の減少にも関わらず、消費者物価の上昇率は一けたに止まった。2013年第1四半期の消費者物価上昇率は前年同期比9.8%で、部門別に見ると、消費者物価指数の構成目の中で最大のシェアを占める食品・非アルコール飲料は、前年同期比7.8%上昇した。さらに交通は1%の低下を記録した。

2013年第1四半期の平均対米ドル為替レートは1ドル＝1.397トゥグルグで、前年同期から3.0%減価した。

財政支出の削減と財政収入の増大により、2013年第1四半期の国家財政収支は840億トゥグルグの黒字となった。財政収入は前年同期を5.8%上回り、財政支出は前年同期を7.7%下回った。

財政収入分類の中で、法人および個人所得税、社会保障

負担、財・サービスに対する税が期間中に増加している。一方で外国貿易に対する税、その他の税は減少した。財政支出の減少では、資本支出と純貸し出しが減少している。資本支出は前年同期の6分の1となっている。エネルギー・熱供給、鉱工業、運輸・通信などの経済活動に関する支出は減少している。これらの分野に対する資金供給は、二つの予算外財源、物価安定基金とモンゴル開発銀行に移管されている。さらにモンゴル政府は、主要インフラとその他の開発プロジェクトのための資金調達として、2012年末に15億ドルの債券を発行したが、この財源からの実際の支出はまだ発表されていない。一方で、公共サービス、社会サービスに対する支出はそれぞれ21%、38%増加している。

### 外国貿易

2013年第1四半期の貿易総額は24億ドルで、前年同期を14%下回った。輸出は前年同期比8億ドル、7.8%減少、輸入も同じく12億ドル、17.3%減少した。輸出減少の主な原因は、主要輸出品の価格の低下と鉄鉱石、蛍石の輸出数量の減少である。2013年第1四半期に、石炭の価格は前年同期比44%低下し、鉄鉱石、蛍石の輸出数量はそれぞれ、前年同期比24%、28%減少した。一方で原油と金の輸出は増加した。原油の輸出量は前年同期比31%増加し100万バレルに、金の輸出量は前年同期比で倍増し1トンとなった。

輸出の減少は、機械、設備、乗用車、トラックなどの輸入の減少によるものである。これらの輸入は第1四半期において前年同期比20～40%減少した。鉱業の採掘現場での投資の遅れと操業の削減が、この低下の主要な原因である。

交通渋滞と交通事故の多発によって、ウランバートル市当局は右ハンドル車の使用中止についてオンライン投票を行ったが、当局の提案は否決された。モンゴルは左ハンドル車を前提とした右側通行を採用しているが、国内の車の半数以上が右ハンドル車であり、大部分が日本から輸入されている。

### 通貨及び金融

2013年第1四半期末の貨幣供給量（M2）は7.3兆トゥグルグで、前年同期を20%上回った。経済活動の活性化のため、政策金利は2012年4月17日から維持されてきた13.25%から、2013年1月25日に12.5%に引き下げられた。3月末時点の融資残高は前年同期を28%上回る7.4兆トゥグルグで、その54%が民間部門、46%が個人向けであった。不良債権比率は2012年11月から5か月連続して4%にとどまっている。

(ERINA調査研究部主任研究員 Sh. エンクバヤル)

	2009年	2010年	2011年	2012年	2012年1Q	2011年2Q	2012年3Q	2012年4Q	2013年1Q	2013年2月	3月
実質GDP成長率(対前年同期比:%)	▲ 1.3	6.4	17.5	12.3	14.6	14.4	10.5	10.6	—	—	—
鉱工業生産額(対前年同期比:%)	▲ 3.3	10.0	9.7	7.2	8.9	8.6	2.2	9.2	7.1	5.2	0.5
消費者物価上昇率(対前年同期比:%)	4.2	13.0	10.2	14.3	12.6	15.4	14.7	14.5	11.4	11.3	9.8
登録失業者(千人)	38.1	38.3	57.2	35.8	50.1	47.5	44.1	35.8	35.2	37.4	35.2
対ドル為替レート(トゥグルグ)	1,437	1,356	1,244	1,359	1,356	1,320	1,368	1,393	1,397	1,394	1,404
貨幣供給量(M2)の変化(対前年同期比:%)	27	63	37	19	23	22	18	19	20	16	20
融資残高の変化(対前年同期比:%)	1	23	73	24	55	39	36	24	28	26	28
不良債権比率(%)	17	12	6	4	6	5	5	4	4	4	4
貿易収支(百万USドル)	▲ 252	▲ 292	▲ 1,747	▲ 2,354	▲ 580	▲ 480	▲ 954	▲ 340	▲ 396	▲ 89	▲ 91
輸出(百万USドル)	1,885	2,909	4,780	4,385	878	1,375	979	1,153	809	225	303
輸入(百万USドル)	2,138	3,200	6,527	6,739	1,458	1,855	1,933	1,493	1,205	313	394
国家財政収支(十億トゥグルグ)	▲ 329	2	▲ 632	▲ 1,163	▲ 56	▲ 519	17	▲ 605	84	5	▲ 0
国内貨物輸送(百万トンキロ)	9,017	12,125	16,337	16,647	3,533	4,004	4,115	4,995	3,015	—	—
国内鉄道貨物輸送(百万トンキロ)	7,852	10,287	11,382	12,176	2,995	3,055	3,045	3,081	2,469	649	922
成畜死亡数(千頭)	1,733	10,320	651	429	123	153	22	132	244	67	105

(注) 消費者物価上昇率、登録失業者数、貨幣供給量、融資残高、不良債権比率は期末値、為替レートは期中平均値。

(出所) モンゴル国家統計局「モンゴル統計年鑑」、「モンゴル統計月報」各号ほか